



ごあいさつ

札幌組副組長 佐藤 英 見

平素より札幌組の運営に深いご理解を賜り、ご協力、ご指導をいただき篤くお礼申し上げます。

時の過ぎ行くのは早いもので、副組長を拝命し、2年半が過ぎようとしています。当初、藤田組長より副組長のご依頼をいただいた時には、とてもそのような大役を全うできるだけの経験も能力もないので、辞退させていただき旨お返事させていただきました。しかし、組長より重ねてのご依頼があり、微力ではありますが、組の運営のお手伝いをさせていただくことになりました。その中で、これまで先輩の皆様が築きあげてこられた組の運営、事業活動を、執行部の一員として携わるなかで、そのご苦労、ご尽力を知らされ、あらためて大きな敬意を表します。

さて、この度これまでの話し合いの経過を引き継がせていただき、従来の基推委の組織が新しく三局体制へと移行しました。そのなかで、局長さんを中心にさまざまな事業が進められております。まだまだ移行したばかりなので、これから皆様のご指導、ご協力を賜りながら少しずつ、より良い活動を目指していきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

また、皆様もご承知のように2年後には、「宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要」をお迎えします。この大法要に向けて本山、教区などでもいろいろな事業計画が動き始め、札幌組としても、その取り組みに向けて準備を始めました。この大きな法要に参加できる喜びを、組内のご寺院の皆様とご門徒の皆様と手を携えて進めていきたいと願っております。まだまだ微力な執行部でありますので、皆様方のご指導、ご教示を重ねてお願い申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

合 掌

組基推委の動き

研修局

札幌組僧侶連続研修会開催

組内の僧侶、寺族、衆徒、法務員を対象に札幌組僧侶連続研修を開始しました。

第1回目は6月29日、札幌別院教化センターにおいて中央仏教学院院長の白川晴顕氏を講師に「浄土真宗の教えと目覚め」のテーマで開催されました。参加者は35名。



第2回は7月21日、前中央仏教学院院長の北畠晃融氏を講師にお招きして、先生の36年間の学院生活、その教育現場を通して「仏教と教育」をテーマに開催されました。17ヶ寺23名が参加。

第14期連研のお知らせ

札幌組第14期連続研修会を開催します。暫く休んでおりましたが、平成22年1月より毎月土曜日が日曜日の午後3時から午後6時まで開催し、計12回の研修会です。一人でも多くのご門徒に参加奨励をお願い致します。詳しくは研修局までお尋ね下さい。

組織局

第29回 全道仏教婦人大会

去る平成21年6月18日、北海道教区全道仏教婦人会連盟主催による第29回全道仏教婦人大会が小樽市民会館大ホールを会場に開催されました。

仏教婦人会総連盟総裁の大谷範子裏方様をお迎えして、「現代、ともに行動へ」の大会テーマのもと、全道各地の95ヶ寺、延べ979



名が参加されました。札幌組仏教婦人会連盟からも25ヶ寺148名の会員が参加しました。

音楽法要の後、大谷範子総裁様よりお言葉をいただき、引き続き、山口教区基幹運動推進委員会同朋部長、宗玄寺住職、嘉屋英嗣師に「如来と私とのあい」の講題で記念講演をいただきました。社会変化のなかに、仏教婦人としてのあり方を考えさせられました。

更に会場をホテル「グランドパーク小樽」に移動して総裁様を囲んでの歓迎会が開催されました。今大会は、後志組仏教婦人会連盟の主管で行われ、来期は北見組が主管です。後志組の皆様本当にお疲れ様でした。

札幌壮年の集い

組織局では、壮年門信徒の研鑽と親睦を深めるために、毎年「札幌組壮年の集い」を開催することを企画致しました。

第1回目は、去る7月11日、北海道教区仏教壮年会連盟代表理事、萩原建興氏（真願寺仏教壮年会会長）の所属寺である真願寺を会場とし、「第一回札幌組壮年の集い」を札幌別院、光明寺、真照寺、真願寺の4ヶ寺35名の参加のもと、開催しました。

壮年会活動報告の後、バーベキューで懇親を深めました。

今後は、組織局が主催して、登録単位が回り番で幹事寺院となり、開催の準備等をお願いしたいと考えています。また、壮年会として登録されていない寺院や組織のない寺院でも参加しやすいように開催を考えています。



Aブロック門徒総代研修会

平成21年7月1日、2日と2日間にわたり、洞爺パークホテル「天翔」においてAブロック門徒総代研修会が開催されました。今年度の担当は後志組でした。

むかわ町真宗大谷派願照寺住職の石島博道師を講師に迎え、「真宗における四有の思想」を講題に講演をいただきました。

参加者は、普段気づかずにいた四有について改めて気づかせていただき、更に、20問の設問、解答を通して、「阿弥陀仏のはたらきによって、お浄土へ生まれさせていただく身にとっては、四有や追善供養などは関係のないことであり、そのことを一つ一つ理解し、総代として門徒の見本となるように努めていただきたい」と研修し親睦を深めました。講演終了後、教務所長より、帰敬式（教区で1万人を目標）の奨励があり、全日程を無事に終了致しました。

伝道局

垂れ幕『世のなか安穏なれ』作製

伝道局では、来る平成23年『親鸞聖人750回大遠忌法要』に向けての啓発運動の一環として、組内各寺院へ法要スローガン『世のなか安穏なれ』の垂れ幕を作製し配布しました。

他にも、札幌組内お待ち受け法要時の記念品・グッズ等も思案検討しております。

又、例年通り札幌組報の発行、並びに『札幌組ホームページ』の更新、『札幌正信会カレンダー法語解説』等を行っております。

今年度より、札幌組内寺族、門信徒の皆様のコミュニケーションの場として、浄土真宗のみ教えに理解を深めていただきたいと思い、新たにホームページ上に門信徒の方々からの疑問や質問等を集約させていただいた『質問箱』という項目を設けさせていただきました。

又、『寺院一覧』の項目もこの度、情報更新をさせていただきました。

今まで以上に見やすいホームページへと整備を進めてまいりましたので、是非、ご活用下さい。



[札幌組ホームページ <http://www.onishi.or.jp/>]

パソコンで仏教用語を扱う際に大変便利なホームページを紹介します。

うまく変換されない仏教用語ですが、「寺子屋ネット」というホームページでは真宗用語を中心とした辞書登録可能のフリーソフト《真宗用語辞書 for ATOK12》があります。また、これは偈文の句も「@+句頭2字の読みを入力→変換」で簡単に入力することができます。

[寺子屋ネット http://www.terakoya.com/r_soft.html]

また、「教学伝道研究センター」のホームページでは、[聖教データベース][オンライン検索]のページから『浄土真宗聖典』原典版・原典版七祖篇・註釈版・註釈版七祖篇のテキストデータの参照と用語検索が可能です。



[教学伝道研究センター <http://crs.hongwanji.or.jp/kyogaku/index.htm>]

教区会報告

平成21年度臨時教区会（6月8日及び9月8日開催）の記録

(1) 教区時報（第218号）で紹介されている通り、後任の教区会議長に寺尾量熙氏（上川南組 光照寺住職）、同副議長に緒方五郎氏（留萌組 信楽寺門徒）が選任されました。

(2) 法規議案として

① 「教区基推委員の任期の調整に関する区令（案）」、更に「教区門徒総代会常任幹事の任期に関する区令（案）」が、それぞれ承認されました。

・いずれも平成23年の親鸞聖人750回大遠忌法要修行に伴う任期の調整で、その期限は平成24年3月31日までとなっています。又、期間内に新たに委員等就任した場合でも、上記期限を越えることはありません。

② 「教区組画編成等調整委員会設置規則（案）」についても承認されました。

・これは現行の「教区・組」の区分が設けられてから半世紀が経過する中で、過疎過密や市町村合併、さらにはIT技術の発展など社会環境の著しい変化に対して、現在の「組画」が十分対応しきれず、様々な弊害が指摘されています。最大寺院数60カ寺に対し最少寺院数5カ寺という「組」間の較差も基幹運動の推進や寺院の興隆、活性化を妨げる大きな要因となっており、新たな伝道組織体の確立が求められてきました。

これらの現状を踏まえ、宗門では平成17年「教区編成等基本問題検討委員会」を設置し、教区や組のあり方について検討を重ね組画の再編成に向けた議論が進められてきました。

・今回承認された区令は、宗門の検討委でまとめられた「組画再編成基本概要」を受けるがたちで、教区内の組画に関する諸問題を実地に調査検討し調整するため委員会を立ち上げるものです。

・当初の予定では、大遠忌法要終了時の平成23年度末の答申を目指すことになっていましたが、各寺院にとっても重大な関心事であり、今後広範且つ慎重な論議が求められています。

なお、北海道教区委員会の構成は、各組長、教区会正副議長、教区内3ブロックから各1名、その他教務所長が必要と認める僧侶、寺族、門徒の中から委嘱されることになっています。

(3) 財務承認議案として

① (i) 平成20年度「一般会計・北海道教区歳計決算（案）」

・歳入合計105,388,739円に対し歳出合計92,976,360円、余剰金12,412,379円（次年度繰越）の決算が承認されました。

・ちなみに、歳入が1億円を越えたのは平成17年度以来のことです。

・特記すべき内容としては、一連の差別問題に関する各組巡回は未実施のため0決算となっています。

・又、伝道教化費の決算額は15,134,728円（全体の16.3%）で

その内訳は、

▽伝道費 944,744円

▽寺院振興費 3,449,282円

▽組織教化費 10,740,702円

となっており、布教伝道、文書視聴覚費が相対的に低調で、教区レベルでの活動に停滞、マンネリ化の傾向が伺えます。

② 平成20年度「特別会計」

(ii) 「教区教学振興資金歳計決算（案・以下同）」

(iii) 「教区退職積立金歳計決算」

(iv) 「地方災害対策歳計決算」

(v) 「平衡資金歳計決算」

(vi) 「親鸞聖人750回大遠忌北海道教区法要事務所歳計決算」

いずれも原案どおり承認されました。

・特記すべき内容としては、

(ii) 教学振興資金29,442,609円は歳出0で全額繰越しとなっています。

(iv) 地方災害対策は、歳入15,302,255円（320カ寺が協力）に対して岩手・宮城内陸地震災害への見舞金として10万円を支出しています

札幌組 親鸞聖人750回大遠忌 お待ち受け準備委員会からのお知らせ

— 札幌組 お待ち受けについて —

平成23年4月から本願寺で勤まります宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要に先駆けまして、札幌組ではお待ち受け法要を勤修いたします。平成22年7月頃に組内一般寺院を会所として、記念法要と帰敬式を行います。また平成22年11月下旬には、門信徒を問わず1000人位の方が入れる会場にて、記念イベントを計画中です。組内寺院が一丸となってこれからお迎えする宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要、札幌組のお待ち受け法要に臨みたいものです。詳しい日程や内容は決まり次第、札幌組よりご案内があります。

さて、大遠忌法要をお迎えするに当たり、法要を盛り上げるために伝道局ではグッズを用意しました。すでに組内寺院にお配りした「世のなか 安穏なれ」というタペストリー（垂れ幕）をはじめ、寺院での法要の際に門信徒の方にお配りするのに適した「飴玉」や「ストラップ」も考察中であります。



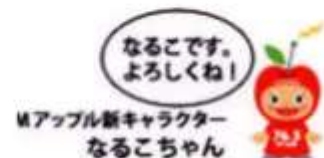
みんなで FM APPLE 76.5MHz を聞こう!

札幌組では今年の4月より豊平区にありますFMアップル(76.5mhz)というミニFM局にて、親鸞聖人750回大遠忌法要の啓発をしております。

もうお聞きになられた方がいらっしゃると思いますが、コメントは円静寺様の藤原健彦くんが作ってくれた分かりやすい内容になっております。BGMが入り、「正信偈」の初重念仏がバックで流れます。念仏は、善住寺様の藤井克行くん、瑞正寺様の小畑慎くん、光円寺様の一瀬守城くんが担当してくれました。

「共にいのち輝く世界へ～み仏のお慈悲のもと 全てのいのちが輝きますように 浄土真宗本願寺派です。」というコメントが流れます。

放送は奇数月の第1月曜日、午後9時から10時までの「和の玉手箱」という番組中と、毎日1回早朝から夕方にかけて流れています。是非お聞き下さい。よろしくお願い致します。



おめでとうございます

乗善寺住職 藤田善昭師 藍綬褒章受章

乗善寺住職・藤田善昭師が平成21年度、春の褒章に際し、更生保護功勞により藍綬褒章を受章されました。

6月25日には札幌グランドホテルに於いて受章祝賀会が催され、札幌組内の皆様方にもご案内をいただき、多数の出席者のもと、盛大に開催されました。

おめでとうございます。



組内 寺院あれこれ

乗善寺仏教婦人会コーラス部

乗善寺仏教婦人会のコーラスは平成3年に結成され、もうすぐ20年目を迎えます。毎月第1・第3月曜日の1時半から3時までの練習は、身体をほぐし発声練習の後、仏教讃歌を中心に各々の気に入った歌を持ち寄って楽しくすすめられます。

降誕会、報恩講等、お寺の行事には色を添えて意義ある法要にと心がけています。

また、札幌別院の報恩講にお誘いいただき、別院蓮如上人五百回遠忌法要・寺基移転40周年の法要や、温泉説法の記念法要にもお声をかけていただき、ありがたいご縁に恵まれました。

これからも仏教讃歌の響きを楽しみながら、仲良く活動を続けていきたいと思ひます。



札幌雅友会からのお知らせ

札幌雅友会は平成8年に組内の若手僧侶を中心に結成され、雅楽の研鑽、法要での雅楽の普及などを念頭に活動し、13年が経過致しました。今では毎年、報恩講のシーズンには、組内寺院よりお声を掛けて頂き、法要に花を添えるお手伝いをさせていただいております。

又、近年は組外寺院からの依頼も多くなり、先般は日高組の親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要の讃嘆衆として出向し、大変意義深いご縁に遇わせていただきました。

札幌組内寺院におきましても、法要の一助となるよう研鑽に励みたいと思ひますので、お声を掛けていただきたいと思います。

詳しくは会長横湯（安楽寺TEL011-891-2903）にご一報下さい。よろしくお願ひ致します。



おくやみ 釋顯真 打本 顯真様 平成21年7月15日往生 行年64歳



去る7月15日、最後まで「いのちを生きぬく姿」を家族に示しながら64年の人生の歩みを終えさせていただきました。

お通夜、葬儀に際しましては、組内寺院の多くの皆様にご参詣を賜り、皆様のご厚情に深く御礼申し上げます。

癌を患って以来、5年余りの闘病生活中は、家族の心配も他所に、布教や講演活動など体力の続く限り行っていました。「病を患って気づいた事がたくさんある」「病もいいご縁であった」と晩年は自坊での布教の度に言っておりました。

ここ数年の父の姿を振り返るとき、おかしな言い方ではありますが、私自身、「父が癌でよかった」と思える歩みをしてくれました。それは「看取り」とは何であるか。大きな問いと答えのようなものを私に残してくれたからです。残されたいのちの最期を見据えて同情して接するのではなく、「今」を共に感じながら歩いていくことが「看取り」だと教えられた気がします。私自身も、また父もそんな事を気づかせていただいたのは、共に感じ歩んでいた多くの出遇い、限りない支えがあったからだと感じております。

大乗寺 打本 大志

正信会子供縁日開催

子供の声の聞こえる寺院活動を目指して!

かつては、境内は子供の遊び場でもありました。それが塾や習い事、室内ゲーム等、さらに少子化が著しくなり、子供の遊び声が聞こえなくなりました。

そのような状況に、正信会では、「子供をもう一度お寺に呼び戻そう」「子供連れでお寺参りしよう」と考えました。

特に、報恩講に是非子供連れで法要にご参拝いただけるようにと、「子供縁日」を企画いたしました。

「なるべく経費をかけずに持ち寄りで開催する。」また、「法要を行っているご寺院様にご迷惑をおかけしない。」を基本的なコンセプトとして開催を目指しております。

今年度は、光円寺と安楽寺の2ヶ寺の報恩講法要で開催致しました。

輪投げ、スーパーボールすくい、くじ引き等で子供達に楽しんでもらいました。

来年度は是非、より多くの組内寺院よりご依頼をいただければ幸いです。詳しくは正信会までおたずね下さい。

正信会子供縁日係 藤井 克之 電話591-8558



編集後記

昭和52年、札幌組正信会が法語カレンダーを作製し始め、又、法語の解説法話をするようになってすでに15年余りになります。正信会カレンダーは、道内は勿論のこと、道外にも送られその発行部数が多い年には、68000部になりご好評をいただいています。平成2年には札幌組ホームページを開設、ネット上にカレンダー法話を掲載しました。その法語解説を一手に引き受けてくれました大乗寺打本顯真氏が7月に往生されました。長い間お世話になりました。